

# 高雄日本人学校の風

校長 高口和治

先回、小2がプールでなにやら、というところでおわりました。ペットボトルを束ねてガムテープで巻き、ひもでしばり、船の形にしていました。その上に2人ずつのり、吉原先生が対岸まで引っ張っていました。どくろマークの旗も立っていました。歓声もあがっていました。全員が無事2年生号でプール往復の旅を楽しみました。

生活科の目標の一つに「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」とあります。

12日に『セデック・バレ』という映画を見てきました（裏面に）

## 9月13日（火）

P T A役員会がありました。4月からP T A祭りの準備を進めています。その報告も具体的なものになってきました。役員の方が心配していたのは、物の集まりがよくないとのこと。家庭数が少なくなっているのも一原因で、より広く声をかけなくてはという話になっています。（15日の日本人会の法人部会でも説明・お願いしてきます）

中学部の期末テストが始まりました。春からのまとめです。

学校運営委員会で、夏休み中、無事故であった報告やプール開放は赤字にならなかった。という報告をしてきました。その後、監視員に支払った残りは来年度まで取っておくようにという指示をいただきました。

## 9月14日（水）

昨日は出かけていて気付かませんでした。中学部の生徒は早帰りで全校の清掃の時間にはいません。中学部の先生方は小学生と一緒に清掃をしています。ちょっと勝手が違っているようで小学生に声をかけながら清掃をしていました。

## 9月15日（木）

朝7時45分ころ、学校の門からグラウンドと校舎の間の道路をあまりスピードを落とさず走る白い車が時々目撃されています。そこで、警察に連絡して現場を見てもらうことで対応しています。グラウンドの間を利用の方はご注意ください。今日は、警察が現場を押さえてくれました。これで止まるといいのですが。普段、警察は日本人学校の巡視を1日20回、夜だけでも10回以上来てくれています。感謝です。

## 9月16日（金）

今朝も、三民区の本部から外事担当の方が車の様子を見に来てくれました。今日は、車が避けたのでしょうか来ませんでした。今日は大変暑く感じます。日差しが強い感じ。朝、NHKニュースを見ていたら、日本の子ども達、熱中症でかなり倒れているということ伝えてあります。高雄日本人学校でも帽子をかぶるよう指導しています。

## 抗日蜂起の霧社事件描いた台湾映画『セデック・バレ』 を観てきました

今、映画館では、前編を上映しています。後編も30日からだそうです。ただ、小学生には、首切りのシーンが多くあり、私としてはお勧めできません。

私は、12日に漢神ドームで前後編一挙に14:30～20:00（休憩も入れて）ありましたのでそこに行きました。台湾の方は若者の姿が多く、原住民の方も台湾の人口比からするとずいぶんめだって多かった気がします。

私自身は、日本から『台湾秘話 霧社の反乱・民衆側の証言』新評社2002年初版を買ってきていました。（興味のある方はどうぞ）

日本で知っている人はほとんどいないと思われます（台湾はどこ？台湾と中国っておなじじゃないの？台湾が日本の植民地だったなんて知らなかった。などという実態から想像したまでです）。台湾の中学校の歴史教科書にも記述がありますので、本のコピーを付けておきます。

『な～るほど・ザ・台湾』でも紹介されています。編集部は、「セデック・バレとは、セデック語で「真の人」という意味だ。メガフォンを取った魏徳聖監督は、この「真の人」が自らの信仰と尊厳を守るために、敢えて勝算のない闘いを挑んだとして捉え、セデック族の悲しい物語を壮大なスケールで描いた。日本人にとっては、改めて台湾の日本統治を見つめ直す機会となりそうだ。」と、紹介しています。

私の解釈としては、原住民の視点からできるだけ客観的に、日本との関係、原住民と別の原住民との関係などを描いているという印象を受けました。日本が台湾を植民地化するにあたって、末端の権力者の在り方に無理があったような描き方でした。